

目次

要旨.....	i
前書き.....	ii
目次.....	iii
第1章 序論	
1. 1 はじめに.....	1
1. 2 研究の問題設定.....	2
1. 3 本研究の範囲.....	2
1. 4 本研究の目的.....	3
1. 5 本研究の意義.....	3
1. 6 研究の方法.....	3
1. 7 本論文の構成.....	4
第2章 基礎的理論及び本論	
2. 1. 1 言語におけるアスペクト.....	5
2. 1. 2 「(動詞) てしまう」の機能.....	6
2. 1. 3 「(動詞) ておく」の機能.....	8
2. 1. 4 「(動詞) てある」の機能.....	8
2. 1. 5 日本語教科書における「(動詞) てしまう」の機能と用法.....	10
2. 1. 6 日本語教科書における「(動詞) ておく」の機能と用法.....	12
2. 1. 7 日本語教科書における「(動詞) てある」の機能と用法.....	13
2. 1. 8 日本語教育における誤用分析の受容性.....	16
2. 1. 9 「Error」(誤差)及び「Mistake」(間違い)の相違.....	17

2. 2	日本語誤用分析についての先行研究.....	17
2. 3	誤用分析について.....	18
2. 4	誤用分析の段階.....	18
2. 5	研究の構成.....	19
2. 6	仮説.....	22
2. 7	研究理論の結論.....	22
第3章	研究の方法	
3. 1	本研究の方法.....	25
3. 2	データ収集の技法.....	25
3. 3	データ分析の技法.....	26
3. 4	本研究の手続き.....	26
第4章	データ分析及び考察	
4. 1	データ分析.....	29
4. 2	考察.....	37
第5章	結論及び今後の課題	
5. 1	結論.....	44
5. 2	今後の課題.....	45
参考	46

表の一覧

図 1. 研究の構成.....	2 1
図 2. 筆記テスト結果グラフ.....	3 2
図 3. (動詞) て形あるについてアンケートの結果.....	3 3
図 4. (動詞) て形おくについてアンケートの結果.....	3 4
図 5. (動詞) て形しまうについてアンケートの結果.....	3 5
表 1. 筆記テストの結果.....	2 9
表 2. アンケートの結果.....	3 1